

誇れる北中の実現

できる! だれでも! どこまでも!

大津の北に燦然と!

5月10日(日)は、愛好作業に多数ご協力いただき、誠にありがとうございました。これからも教育環境整備に努力して参ります。今後ともご協力よろしくお願いいたします。



素直は武器

朝、七時半から登校指導をしています。出張等がなく、朝から学校にいるときは、ほぼそうしています。始業式の翌日、四月九日から始めました。最初は、校長とはいえ慣れぬおじさんが、「おはようございます!」とにこやかに挨拶したところで、同じようににこやかに「おはようございます!」と返してくれる生徒は、私の体感では一割程度でした。しかし、とても大人なその振る舞いに感心しました。次に表情は固いが小さく挨拶を返してくれる生徒が四割、声はないが会釈や目礼(もくれい)を返してくれる生徒が四割です。こちらの存在を認識してくれているのです。

そして、残りの一割が特に反応がない生徒です。しかし、そういう彼らの顔をじっと見ると目が泳いでいたり、頑なに違う方向を見ていることが分かることが多く、そんないわゆる「思春期の迷い」的な反応を見ると、中学校教師としてソクソクしてしまつのです。私は何かおかしいのでしょうか。

しばらくして全校生徒に向けて話す機会があったので、「目を合わせよう。良ければニコツとしてくれるとうれしい。さらに聞こえる挨拶を返してくれたらもっとうれしい。」と伝えたら、にこやかな表情でありさつを返してくれる一割だった生徒が三割に増えました。満面の笑顔を見せる子も

少なくありません。かわいい! さらに、会釈や目礼であっても微笑み返してくれる生徒が増えました。これで反応がない生徒はほとんどいなくなりました。それぞれの笑顔もかわいいし、こうした素直さが北中生のかわいらしさです。

また、先日二年生の男子生徒二名が「校長先生、ありがとうございます!」と草刈りをしている私に声をかけてくれました。私は瞬間的に元氣モリモリになりました。他にも私がゴミ拾いをしていたときに、感謝の言葉を伝えてくれた生徒もいました。本当にできた子たちだなあと思います。

体育大会の練習が連休明けから本格化しています。団長や生徒会役員をはじめとするリーダーたちは、自分たちの力で唯一無二の体育大会にしたいと強く思っているようです。その思いを、どんな言葉で全校生徒に伝えていくのか、どんな行動で示していくのか、まだまだ明確ではないようです。

多くの保護者の方にご協力いただいた愛校作業によって、体育大会の環境は整いました。あとは、三年生を中心とした生徒の気持ちや行動の準備が整つかどうかです。まだまだ伸び代は大きい! 今の北中生の大きな武器である「素直さ」が発揮されれば、伸び代以上の成長が見込めるでしょう。それが唯一無二にするための条件です。